

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

一般社団法人 学士会

令和4年度事業報告（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

事業概況

令和4年度は、「新型コロナウイルス感染症」感染対策としての行動制限が緩やかになってきたとはいえ、「コロナ禍」の影響が続く中でのスタートとなりました。

本会においても、講演会事業・学会館事業を始めとした活動の縮小・制限の影響は最後まで尾を引き、財政面では、本年度も前年度同様2億円を超える支出超（赤字）となりました。

会員数においても、七大学における入会勧誘活動の場の縮小と活動の制限は変わらず、デジタルツールを利用した新たな施策を模索するも、残念ながら会員数減少に歯止めを掛けることは叶いませんでした。

しかし、下半期より政府の方針が「コロナ撲滅」から「コロナとの共存」へと方向転換したことを受け、本会事業においても明るい兆しが見え始めたことも事実です。特に、本年度は本会の恒例行事の一つである「クリスマス家族会」を3年ぶりに実施することができました。また、前年度開催された「学会 今後のあり方検討委員会」の提言を受け実施した「ハイブリッド講演会」や本会同好会や会員有志団体の活動を紹介した「学会フェスタ」は、想定以上の結果を残すことができ、今後の学会事業・サービスの企画・検討をする上で大きな自信となりました。加えて、令和元年度より中止を余儀なくされてきた東京大学卒業式当日の入会勧誘活動も一部制限があったものの実施することができ、新入会員獲得の足掛かりとなる場を一つ取り戻すことができました。

本会の事業活動収入の大きな柱となる会館運営事業においても、「全国旅行支援」等の後押しもあり、運営子会社である(株)学会館精養軒の業績は当初予算を大きく上回り、「コロナ禍」前の売上の67%程度まで回復することができました。

事業活動が徐々に回復しつつある中、本会が平成30年度より取り組んで参りました「学会館再開発」プロジェクトも大きな局面を迎え、本年3月には、隣地所有者である住友商事(株)と、プロジェクトの第一フェーズである「基本合意書」を締結するまでに至りました。

新年度を迎え、社会全体が“ウィズコロナ”に向けて進み始めるとともに、本会の事業環境もだいぶ回復して参りました。本会では令和5年度事業計画の通り、最重要課題である「学会館再開発」問題を筆頭に、それを取り巻く諸活動の展開の他、再開発中・再開発後を見据えた学会事業・サービスの企画・検討を引き続き、実施して参ります。

以下、令和4年度の実施事業についてその概要を報告致します。

令和4年度の本会は、取り組むべき重点課題として以下の3点を掲げ、「コロナ禍」による活動の制限を一部受けながらも当該課題に対する取り組みを行うと共に、定款に掲げる各種事業を実施してきました。

令和4年度の各事業の実施状況は後段にて詳述致しますが、以下、重点課題に対する取り組み結果について報告致します。

(1) 本会の魅力作りに向けた活動への取り組み・継続実施

本年度も会員にとって本会の存在や活動を一層魅力あるものにするため、『学会会報』や講演会（夕食会・午餐会等）の企画に際しては、会員にとって興味・関心の高いテーマの選定に努めると共に、魅力ある執筆陣・講師陣の人選に努めて参りました。

また、前年度開催された「学会 今後のあり方検討委員会」からの提言を受け、デジタル化推進の一環としてオンライン配信を取り入れたハイブリッド形式の講演会を試行的に実施するなど、会員サービスの充実に向け取り組んで来ました。同様に関係大学や関連同窓会の皆さまの尽力を得て、地域講演会（北海道・名古屋）においてもオンライン開催を実施し、遠隔居住者を含む多くの会員の参加を得ることが出来

ました。

さらに、前年度より新たな試みとして始めた「Zoom体験会」も好評の内に回を重ね、その参加者の中から会員同士の「Web交流会」が生まれ、「Webサロン」、「サクラ会」（女性会員によるWeb交流会）の活動に繋がるなど、新しい形の会員交流が根付いて来ました。今後とも会員同士の“コミュニティー活動”を支援して参ります。

また、本年度は、初めての試みとして趣味同好会の皆さまや会員グループ有志の皆さまによる“活動発表会”ともいえる「学士会フェスタ」を開催し、多くの皆さまの参画を得ることが出来ました。

更に、コロナ禍によって中止していましたが「クリスマス家族会」の復活や学士会館外での各種イベント（施設見学会、体験会等）も企画・実施することが出来ました。令和5年度も引き続き、本会の魅力作りに向けた活動に取り組んで参ります。

（2）学士会館の再開問題に向けた本格的活動の展開・推進

学士会館の再開に関しては、令和4年度臨時代議員総会（3月16日開催）においても詳しく説明させて頂いた通り、この一年で大きな進展を見ることが出来ました。

令和4年4月に本会の東側隣地の所有者変更が行われ、新所有者となった住友商事㈱とは、両者で共同再開を目指していくことを合意すると共に、共同再開に向けた正式な協議機関（「神田錦町三丁目開発準備協議会」）を設置し、具体的協議を進めて参りました。令和5年3月には、当該協議を通じて両者合意に至った共同再開に関する基本事項を「基本合意書」として取りまとめ、契約締結を行いました。「基本合意書」においては、共同再開を行う上での基本的枠組み・考え方等について合意すると共に、本会が再開を行う上で必要となる開発資金の調達方法についても確認しております。

また、住友商事㈱との二者間協議の他に、再開を行う上で必要となる各種の行政協議を関連行政機関（千代田区、東京都、文化庁等）との間で精力的に実施し、開発内容の説明と課題の整理、理解促進等に努めて来ました。再開の実現に向けては、まだまだ多くの課題が存在しますが、令和5年度も学士会館の再開を最重点課題に掲げ、精力的に取り組んで参ります。

（3）事業活動収支—特に会館運営事業の収益改善—赤字幅の縮小

本会にとって学士会館の運営は、本会の事業活動を経済面から支えている最も重要な事業となりますが、その運営は本会の100%子会社である㈱学士会館精養軒が担っております。

今般のコロナ禍により、集宴会事業・婚礼事業・宿泊事業・レストラン事業のいずれもが大きな痛手を被り、令和2年度・令和3年度の売上はコロナ禍前水準の25%～35%程度まで落ち込み、大きな赤字を計上しましたが、令和4年度は「緊急事態宣言」等の発令による営業制限も無く、業績的には回復傾向が見られました（コロナ禍前の67%）。下半期に入ってからにはコロナ禍前水準に近い回復を見せた部門もあり（レストラン部門・宿泊部門）、売上が拡大した一方で、柔軟な人員配置の実施や経費の抑制を徹底した結果、営業利益は前年に比べて2億7千万円程の改善を果たし、1億7千万円超の黒字を計上することが出来ました。但し、この実績は前年度同様、本会への納付金の全額免除という“救済措置”を受けてのものであり、実質的には黒字達成とは言い難い状況です。令和5年度においては、引き続き経営努力を重ね、本会への納付金を一部負担した上でも黒字を達成できるよう努めて参ります。

以下、各事業別にその概要を報告致します。

1. 会 報 (『學士會会報』及び『NU7』)

本会会報である『學士會会報』と『NU7』を隔月に同時発行しました。『學士會会報』は第954号を令和4年5月、第955号を7月、第956号を9月、第957号を11月、第958号を令和5年1月、第959号を3月にそれぞれ発行し、全会員に配布しました。また、『學士會会報』は七大学各学部図書館に寄贈する他、国立国会図書館や各県立図書館等へも毎号寄贈し、本会の目的でもある“学術的文化的知識の交流普及”に努めました。

七大学総合情報誌として平成27年9月より発行している『NU7』は、第41号を令和4年5月、第42号を7月、第43号を9月、第44号を11月、第45号を令和5年1月、第46号を3月にそれぞれ発行し全会員に配布すると共に、七大学関係者にも広く配布し、会員増強に資するよう努めました。

また、学生会員向けサービスの一環として、希望する学生会員約300名に『學士會会報』と『NU7』を配布しました。

2. 学 士 会 館

(1) 会館の利用実績は次の通りです。

□会議室利用回数	3,840回	(2,292回)	*カッコ内は前年度実績
□会議室利用人員	85,833名	(36,764名)	} ※延べ人数 計 210,124名 [1日平均588名] 臨時休業日・年末年始を除く
□宿泊室利用人員	7,307名	(3,058名)	
□レストラン等利用人員	105,097名	(82,602名)	
□読書室利用会員	1,739名	(1,848名)	
□会員倶楽部室利用会員	10,148名	(6,586名)	

(2) 会館を適切に維持・保全するために、次の通り会館の補修・改修工事を行いました。

本年度も学士会館の営業収入減が継続していることを踏まえて、投資目的となる改修工事の実施は見送りましたが、会館営業に必要な最小限の諸工事を次の通り実施しました。

- ・「旧館地下男子トイレ小便器排水管詰り不具合」に関する排水ルート変更改修工事
- ・「202号室」天井梁型脱落防止対策工事
- ・「天井灯安定器」のPCB含有調査および「PCB廃棄物」の処理
- ・「二色・3階小部屋の各配膳室」の各給湯器交換工事、「中庭」の排水ポンプ交換工事
- ・「二色・新館1階男女トイレ・新館1階広間・紅楼夢・320号集会室・430号客室」の各空調機の修理工事

上記の他にも、会館営業に支障をきたす事項に対しては、適宜補修工事を実施しました。

(3) 学士会館の防火防災対策の一環として、次の通り実践的な防火防災訓練を行いました。

- ・防火防災総合訓練の実施（11月）
- ・夜間における大地震と火災発生を想定した、学士会館従業員の対応訓練の実施（3月）

(4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、前年度に引き続き次の通り対応しました。

- ・来館者向けに「顔認証体温測定器付きアルコール消毒器」を南北玄関に継続して設置
- ・毎日、館内共用部各所の定期消毒を継続して実施

3. 講演会、交流会、その他の活動

前年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策（以下「新型コロナ感染対策」）の観点から、予定していた講演会・各種イベントの多くが中止、もしくは規模を縮小しての開催となりましたが、本年度はおよそ、計画通りに開催することが出来ました。

(1) 夕食会

本年度は次の通り、各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催（5月、8月、1月は例年通り休会）しました。延べ980名の参会がありました。

万葉集から見た日本の歌の素晴らしさとその全訳

ピーター・J・マクミラン 氏（令和4年 4月例会）

数学的アイデア：その実用性と芸術性

森 重 文 氏（令和4年 6月例会）

RCEP ～その特徴と日本経済に及ぼす影響

永 濱 利 廣 氏（令和4年 7月例会）

北条義時が生きた時代 ―義時とはどんな人物だったのか―

坂 井 孝 一 氏（令和4年 9月例会）

私のスピントロニクス遍歴

大 野 英 男 氏（令和4年10月例会）

麹菌の持つ無限の可能性

小 泉 武 夫 氏（令和4年11月例会）

医療におけるメタバースの現状と将来

小 山 博 史 氏（令和4年12月例会）

コロナ禍を超えて、未来を描く～国産ワクチン開発の現状と課題～

濱 口 道 成 氏（令和5年 2月例会）

幸福度ランキング5年連続世界1位のフィンランドのライフスタイル

ラウラ・コピロウ 氏（令和5年 3月例会）

(2) 午餐会

本年度は次の通り、夕食会と同様に各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催（8月、12月は例年通り休会、9月は台風接近のため休会）しました。延べ976名の参会がありました。

ペロブスカイト太陽電池～その特徴と今後の技術革新の可能性

宮 坂 力 氏（令和4年 4月例会）

脳で直接、機器操作：ブレイン・マシン・インターフェースの最新動向と今後の展望

平 田 雅 之 氏（令和4年 5月例会）

日本語の世界 ―オノマトペ―

山 口 仲 美 氏（令和4年 6月例会）

絶対的正解のないのが政治（意思決定の難しさ）

伊 吹 文 明 氏（令和4年 7月例会）

「IL-6 物語」―関節炎から CAR-T 細胞治療そして COVID19 へ―

岸 本 忠 三 氏（令和4年10月例会）

中間選挙後の米国政治・経済と国際秩序の行方

菅 野 幹 雄 氏（令和4年11月例会）

小惑星リュウグウの声に耳をすませて

橘 省 吾 氏（令和5年 1月例会）

ウクライナにおける戦争犯罪の処罰について ～国際刑事裁判所の機能と課題

尾 崎 久仁子 氏（令和5年 2月例会）

映画字幕の世界

戸 田 奈津子 氏（令和5年 3月例会）

(3) 関西茶話会

関西地区の会員を対象とした関西茶話会を、新型コロナ感染対策の観点から本年度は講演会のみに変更

して開催し、延べ117名の参会がありました。

第46回「素材から見たルネサンス美術 ―銅板の上に描かれた油彩画を中心に」

平川 佳世 氏 (令和4年 4月16日)

第47回「言葉を持つ鳥、シジュウカラ」

鈴木 俊貴 氏 (令和4年 7月 9日)

第48回「ポストコロナにおけるプラスチックの使命と役割 ～プラスチックとの共生～」

宇山 浩 氏 (令和4年10月15日)

第49回「家康のスペイン外交」

フレデリック・クレインス 氏 (令和5年 2月18日)

(4) ハイブリッド講演会

学士会事業のデジタル化の一環として、本年度はハイブリッド形式(学士会館+オンライン)の講演会を8月と11月に開催し、延べ383名の参会がありました。

夏期講演会「新型コロナウイルス これまでとこれから」

尾身 茂 氏 (令和4年 8月24日)

秋期講演会「第20回党大会後の中国をめぐる内外情勢」

横井 裕 氏 (令和4年11月30日)

(5) 地域講演会

本年度は、新型コロナ感染対策の観点から、北海道地区、名古屋地区はオンラインで開催しました。東北地区・九州地区は、開催中止となりました。

□北海道地区(オンライン開催)

共催 学士会、北海道大学校友会エルム

後援 北海道大学

「世界認識と日本の針路～コロナ、ウクライナ危機の先にあるもの」

寺島 実郎 氏 (令和4年10月 1日)

(参加者：354名)

□名古屋地区(オンライン開催)

共催 学士会、名古屋大学全学同窓会

後援 名古屋大学

「2050年カーボンニュートラルを目指して」

内山田 竹志 氏 (令和5年 2月20日)

(参加者：452名)

(6) 若手茶話会

45歳までの会員を対象とした茶話会(「ミニプレゼン会」「読書会」「d o C a f é)を、若手会員の集まりである「学士会YELL」が主体となり、毎月開催しました。Web会議システムにて実施し、延べ256名の参会がありました。

<実施内容の一例>

(ミニプレゼン会)

「モンゴル文字、及び、教育方法の紹介」

西村 僚之佑 氏 (令和4年10月30日)

「弁護士から見た税法の考え方」

吉田 正毅 氏 (令和5年 2月26日)

(7) Web会議システム体験会・交流会

Web会議システム(Z o o m、T e a m s、M e e t)の体験会並びに会員同士で談話をする「Web

交流会」や、交流会参加者の要望から生まれた『學士會会報』の読書会「90分 de 『學士會会報』」等を毎月計33回開催し、延べ251名の参会がありました。

(8) 会員交流企画

本年度、新たな会員交流企画として、学士会館ビアホールを会場に初対面の会員同士が同じテーブルで会話と食事を楽しむ「ビアホール相席会」を計2回開催し、7名の参会がありました。

(9) クリスマス家族会

本年度、3年ぶりとなる「クリスマス家族会」を令和4年12月24日に開催し、(株)学士会館精養軒によるクリスマス特製メニューの提供に加え、パントマイムマジシャンの演者が1時間一言も喋らずにマジックを行うというコロナ禍にふさわしい演目（「ジン・マサフスキーのサイレント・コメディ・マジック」）を披露し、会場を沸かせました。271名の参会がありました。

(10) 新年祝賀会

本年度は、樺山紘一理事長の新年の挨拶、賀宴、米澤賢一会員の謡曲披露の後、田中優子氏（法政大学江戸東京研究センター特任教授・前総長）による講演会（演題：「なぜ江戸時代は循環型社会だったか」）を令和5年1月5日に開催し、138名の参会がありました。

(11) 見学会

首都圏及び北陸地区において、次の通り見学会を開催しました。

[首都圏]

本年度は、日本カメラ博物館 古写真研究員の井桜直美氏を講師に、幕末・明治時代の古写真に写る皇居8門を巡り現在の様子と比較する「古写真と巡る皇居一周ツアー」を令和4年5月14日に、元国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究ディレクターの根田仁氏を講師に、生田緑地に生息する様々な種類のきのこを観察する「きのこ観察会 ～きのこ博士と堪能 きのこの魅力～」を令和4年10月22日に開催しました。共にキャンセル待ちが多数発生したため急遽定員を増やし、延べ37名（満員）の参会がありました。

[北陸地区]

本年度は、日本海側初の国立美術館として令和2年10月石川県金沢市に開館した国立工芸館において、所蔵作品や建物外観・内部を館長の唐澤昌宏氏直々の解説で見学する「国立工芸館館長が解説する見学ツアー」を令和4年11月26日に開催し、21名の参会がありました。

(12) 良縁イベント

27歳～42歳の独身者（会員、及び会員家族）に参加者を限定した良縁イベントを令和5年3月12日に開催し、24名（男女各12名）の参会がありました。募集開始早々に満席となり、キャンセル待ちも多数発生しました。

(13) 親子向けイベント

本年度は、Jリーガーをはじめとするアスリートの個人指導も行っている浅川俊彦氏（前東京大学教育学部附属中等教育学校副校長）が“速く走るコツ”を伝授するイベントを、「フットサルスタジオライブ 豊洲」（東京都江東区東雲）において、令和4年8月20日に開催し、22名の参会がありました。人出

の多い夏休み期間中の開催ということもあり、首にかけたり、手に持っているだけでも周りの目を惹く“学士会オリジナルタオル”をこの日に合わせて限定制作し、参加者に使用してもらうことで、学士会の知名度向上にも努めました。

(14) 学士会フェスタ

前年度開催された「学士会 今後のあり方検討委員会」の提言を受け、本会公認同好会（撞球、囲碁、将棋、俳句、漢詩、短歌、落語、探訪、謡曲）を中心に、会員有志団体、九州大学同窓会、北海道大学同窓会、本会提携企業等約20団体が参画し、講演会や体験会、展示・物販などを行う文化の祭典「学士会フェスタ」を、令和5年2月23日に開催しました。学士会館とオンラインを併用し、延べ585名の参会がありました。

(15) 動画配信

少しでも学士会を身近に感じてもらうべく、「学士会主催イベント 動画チャンネル」において、樺山紘一理事長による動画「人生最高の一冊」を会員限定にて配信しました。国内はもとより、海外在住会員からも感想が届きました。

出演：樺山 紘一 氏（学士会理事長／元国立西洋美術館館長） （令和4年11月9日公開）

内容：「子供の頃夢中になって読んだ本」、「最近読んで面白かった本」、「人生最高の一冊」の計3冊を、その理由と共に紹介

(16) 同好会支援

本年度は、コロナ禍の影響で休会していた全ての同好会が活動を再開し、撞球、囲碁、将棋、俳句、漢詩、短歌、落語、探訪、謡曲の各公認同好会及び、オンラインで定期的に集まり談話を行う「Webサロン」、「サクラ会」の開催を支援しました。

(17) 会員企画支援

「学士会YELL」と「京都大学同窓会若手会」の共催による講演会を支援しました。当日は学士会館及びオンラインを含め、285名の参会がありました。

「霊長類学×進化精神医学×共感資本社会 進化の足跡から考えるこれからの社会」

山 極 壽 一 氏・高 野 覚 氏（令和4年12月10日）

(18) 学生会員支援

学生会員の就職活動を支援すべく、前年度に引き続き、企業等に勤める正会員の個人情報（勤務先・職種・入社年・転職経験等）を掲載した「学生会員就職支援用OB・OG名簿」の登録者を募り、36歳～45歳の正会員から37名の登録がありました。現在の登録者数は90名です。

(19) 提携サービス紹介

提携企業が本会の会員向けに提供する各種サービス（引越し、ホームセキュリティ、スポーツクラブ等）について、延べ153名の利用がありました。

演劇・コンサートなどを紹介する「鑑賞ツアー」は、新型コロナウイルス感染症に関する行動制限の緩和措置等を受け、延べ1,331名の利用がありました。

(20) ホームカミングデイへの出店（中止）

ホームカミングデイは、各大学とも現地とオンラインによるハイブリッド形式にて開催されましたが、新型コロナウイルス感染対策の観点から、大学構内での活動には制限が設けられました。その影響を受け、前年度に引き続き本年度も本会としてのホームカミングデイへの出店は叶いませんでした。

4. 諸会議等

(1) 通常代議員総会

本年度の通常代議員総会を、令和4年6月23日学士会館において開催しました。当日の出席代議員56名、書面等による議決権行使代議員41名、合計97名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和3年度事業報告並びに決算報告について
- 議案2 任期満了に伴う理事13名の選任について
- 議案3 任期満了に伴う監事2名の選任について
- 議案4 学士会館の再開発に関する今後の取り組みについて

(2) 臨時代議員総会

本年度の臨時代議員総会を、令和5年3月16日学士会館において開催しました。当日の出席代議員46名、書面等による議決権行使代議員51名、合計97名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和5年度（2023年度）事業計画案及び予算案について
- 議案2 学士会館の再開発に対する取り組みについて

(3) 理事会

本年度は次の通り開催し、諸般の会務について審議決定致しました。

□ 4月理事会（令和4年 4月28日）

- 1. 令和4年度通常代議員総会の開催について
 - 2. 令和3年度決算概要について 併せ、(株)学士会館精養軒の決算概要について
 - 3. 学士会館の再開発問題に関する隣地動向と共同事業に向けての今後の進め方について
 - 4. 「名誉代議員制度」の新設・導入について
 - 5. 本会事務局「就業規則」の一部改定及び関連規程の制定について
- 報告 (1) 新卒業学士等の入会状況について
(2) 令和4年度期首会員数及び令和3年度の会員数動向について

□ 5月理事会（令和4年 5月26日）

- 1. 再開発問題に関する住友商事(株)との協議状況について
- 2. 令和4年度通常代議員総会の議案について
- 3. (株)学士会館精養軒の第71期定時株主総会議案について

□ 6月理事会（令和4年 6月23日）

- 報告 (1) 学士会館の営業状況（4月～5月）について
(2) （本日開催）通常代議員総会について

- 6月理事会（令和4年 6月23日—代議員総会終了後）
 1. （定款第27条第2項に基づく）理事長の選任について
 2. （ 同上 ）副理事長及び常務理事の選任について
 3. 会報編集委員会委員等、各委員会委員の選任について
 報告（1）（確認）7月以降の理事会等会議体日程について
- 7月理事会（令和4年 7月21日）
 1. 令和4年度第一四半期（4月～6月）会計報告
 - ①（一社）学士会 ②(株)学士会館精養軒
 2. 学士会館の再開発に関する進捗状況について
 3. 「会員増強実行委員会」（委員長：大垣常務理事）の改称について
 4. 学士会事務局組織の見直しについて
 報告（1）第61回全国七大学総合体育大会（七大学）の開会式について（口頭報告）
 （2）令和4年度第一四半期（4月～6月）の会員数動向等について
- 9月理事会（令和4年 9月22日）
 1. 学士会館の営業状況について
 2. 「会報編集委員会委員」の変更（退任及び補充）について
 3. 学士会館の共同再開発に関する進捗状況について
 報告（1）「学士会館」の現状—写真による報告—
 （2）「夏期講演会」の開催報告（8/24開催）
 （3）「地域講演会（北海道講演会）」の開催について
 （4）「七大学」の戦績状況及び閉会式について
- 10月理事会（令和4年10月27日）
 1. 令和4年度上半期決算報告及び令和4年度上半期資金運用状況報告
 並びに下半期運用計画（案）について—併せ(株)学士会館精養軒の令和4年度上半期決算報告—
 2. 学士会館の共同再開発に関する進捗状況
 3. 「学士会会員サービス高度化委員会」の委員補充について
 報告（1）令和4年度上半期会員数動向
 （2）「地域講演会（北海道講演会）」の実施結果報告
- 11月理事会（令和4年11月24日）
 1. 学士会館の10月度営業状況について
 2. 令和4年度「臨時代議員総会」の開催について
 3. 令和5年度（2023年度）理事会等の会議日程について
 4. 学士会館の再開発計画の進捗状況
 報告（1）七大学総長懇談会の開催
- 1月理事会（令和5年 1月26日）
 1. 稲葉理事の「辞任申出」について
 2. 令和4年度決算見通し及び令和5年度予算作成の考え方について
 3. 令和4年度第三四半期(株)学士会館精養軒の会計報告について
 4. 令和4年度臨時代議員総会議題について
 5. 学士会館の共同再開発に関する進捗状況及び「基本合意書（案）」について

報告（１）令和４年度第３四半期の会員数増減について

（２）「学士会フェスタ」（２月２３日（祝・木）開催）について

□２月理事会（令和５年 ２月２４日）

- １．共同再開発に関する「基本合意書（案）」の承認について
一併せて「共同再開発プラン」に関する“画面”説明一
- ２．学士会館の再開発に対する取り組みについて
- ３．令和５年度事業計画案について
- ４．令和５年度予算案及び資金計画案について
- ５．外国仕組債の早期償還に伴う再投資について

報告（１）「名古屋講演会」の開催結果（２／２０）について

（２）「学士会フェスタ」の実施報告（２／２３）（口頭報告）

□３月理事会（令和５年 ３月１６日）

報告（１）学士会館の営業状況について（口頭報告）

（２）（本日開催）臨時代議員総会について

（３）その他

（４）監事会

- １．監査法人からの報告
- ２．令和３年度決算報告（令和３年４月１日～令和４年３月３１日）
令和３年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び財務諸表の注記の検査
- ３．「公益目的支出計画実施報告書」の内容について
- ４．代議員総会第３号議案（任期満了に伴う監事２名の選任）について

（５）常務会

毎月定期的に常務会を開催し、理事会提出議案の審議等、種々の会務を審議し必要事項を決定致しました。

（６）諸委員会

ア．会報編集委員会

本年度は次の通り開催し、種々検討・協議の上、各号の執筆候補者及び講演会（夕食会・午餐会）講師の選定・決定を行いました。

- | | | | |
|-------|--------|-------------|-------------|
| 第 1 回 | 令和 4 年 | 5 月 2 6 日 | 会報第 9 5 7 号 |
| 第 2 回 | 令和 4 年 | 7 月 2 1 日 | 会報第 9 5 8 号 |
| 第 3 回 | 令和 4 年 | 9 月 2 2 日 | 会報第 9 5 9 号 |
| 第 4 回 | 令和 4 年 | 1 1 月 2 4 日 | 会報第 9 6 0 号 |
| 第 5 回 | 令和 5 年 | 1 月 2 6 日 | 会報第 9 6 1 号 |
| 第 6 回 | 令和 5 年 | 3 月 1 6 日 | 会報第 9 6 2 号 |

イ．会員増強実行委員会・会員サービス高度化委員会

本年度は次の通り開催し、会員増強の各種施策について協議を行いました。

- 第 3 3 回 令和 4 年 6 月 7 日

本委員会を、会員増強の他、学士会館再開発後を見据えた新たな学士会事業・サービスについてまで幅広い施策を協議する場とするべく「会員サービス高度化委員会」と改称しました。改称後は、次の通り開催し、デジタル化をキーワードに様々な施策につき協議を行いました。

第 1 回 令和4年11月22日

第 2 回 令和5年 2月 3日

『NU7』については、編集担当委員による内容確認の上で、隔月で発行しています。

ウ. 学士会館再開発委員会

本年度は次の通り開催し、隣地所有者との共同開発の「基本合意書締結」に向けた検討協議や、学士会館の整備・再開発に向けた対応方針等について、具体的な検討を行いました。

第24回 令和4年 4月28日

第25回 令和4年 5月26日

第26回 令和4年 7月21日

第27回 令和4年 9月22日

第28回 令和4年10月27日

第29回 令和4年11月24日

第30回 令和5年 1月26日

第31回 令和5年 2月24日

エ. 趣味同好会

令和4年12月1日に撞球、囲碁、将棋、俳句、漢詩、短歌、落語、探訪、謡曲の各同好会の年間優秀会員もしくは功労会員に対して理事長杯を授与し、その後、懇親会を開催し懇談を行いました。

5. 会 員

本年度における正会員の増減及び年度末正会員数は次の通りです。*カッコ内は前年度実績

新 会 員 547名 (371名)

逝 去 会 員 641名 (618名)

退 会 会 員 946名 (964名)

会費長期未納退会者 259名 (271名)

差 引 減 1, 299名 (1, 482名)

現 在 会 員 数 38, 515名 (内 終身会員6, 490名)

(注:「終身会員」の内、戦前に制定された終身会員制度による加入者が288名、平成21年度より新たに制度化された「新終身会員」が6, 202名になります)

学 生 会 員 5, 407名

(注: 3月卒業・修了予定の1, 313名を含めた会員数になります)

6. そ の 他

本会は、(株)学士会館精養軒に学士会館の運營業務を委託していますが、平成16年2月以降、本会が同社の株式を100%保有しています。同社の概要は次の通りです。

[株式会社 学士会館精養軒の概要] (令和5年3月31日現在)

□名 称 株式会社学士会館精養軒

□所 在 東京都千代田区神田錦町3-28

- 代表者 代表取締役社長 小堀 康生
- 資本金 10,000,000円
- 売上高 1,114,212千円 (令和4年度決算)

(株)学士会館精養軒の令和4年度の営業結果は、次の通りです。

- 令和4年度 (令和4年4月1日～令和5年3月31日) 決算
 - ・売上高 1,114,212千円 (前年度: 570,793千円)
 - ・営業利益 171,389千円 (同: ▲101,297千円)
 - ・経常利益 186,907千円 (同: 61,886千円)